

中学生の学校生活への充実感に 関する教育心理学的研究 (3)*

——調査項目の因子分析による発達の検討——

一 谷 彊・相 田 貞 夫・水 谷 昭

Educational and Psychological Study of Self-fulfillment to
School Life among Junior High School Students (3)
——Developmental Investigation by Factor Analytical
Method of School Life Questionnaire Items——

TSUYOSHI ICHITANI, SADA O AIDA, and AKIRA MIZUTANI

Received May 1, 1990

抄 録 (抜萃) : 学校生活への充実感に関与すると思われる内容について質問紙を作成, 現代の中学生が「今の学校生活に対して, どんな側面に, どんな形で充実感や満足感をもって意欲的に物事に対処するか」を調査, 学校生活一般や集団行動 (特別活動) に対してもっている意識などを調べた。この資料について, 因子分析法によって発達の検討した結果, 1 年生では教師の役割が, 2 年生では友達関係が, 3 年生では将来の進路への関係などもあって, 次第に自我の拡大とともに深化が大となり, 同時に教師や友人関係についても学校内での生活事象によって統合と分化が生じることがみられた。こうした結果は教育心理学的にみて, 生徒指導や教育相談のあり方などに重要な示唆をもたらした。

検索語 : 中学生, 調査法, 因子分析, 特別活動, 生徒指導

-
- ※ (註) 1. 本研究は, 昭和62年度京都府教育委員会現職教育職員長期派遣事業の一環として派遣された舞鶴市立白糸中学校教諭 (当時和田中学校教諭) 水谷明の研究報告「集団活動と生徒理解について——集団不適応生徒の指導にかかわって——」のなかで使用了学校生活への生徒の意識調査について, 一谷と相田が指導・助言し, 同時に因子分析的検討を最終的に加えたものを, さらに再検討してまとめたものである。中学校での教育実践的研究に還元されることを願って論述したものであることをことわっておく。
2. この研究に際して, 舞鶴市立和田中学校の当時の教職員の方々や生徒のみなさんに協力していただいたことに心から感謝とお礼を申し上げ, 貴重な資料として教育現場に還元されるよう今後も努力する所存であります。

Abstract: To investigate the relationship between the sense (or feeling) of self-fulfillment and the adjustment to school life situations among junior high school students, the authors constructed the school questionnaire scales related to the above mentioned. The data obtained from the public school students in Maizuru City, Kyoto Prefecture, were analyzed by the methods of principal factor and varimax rotation. The final results gained by these procedures were discussed from the point of developmental psychology of puberty.

These were as follows;

- (i) For the first year grade students, the teacher-student interrelationship takes a very important role to improve the sense of self-fulfillment to school life.
- (ii) For the second year grade students, the interrelationship among friends is a critical point.
- (iii) For the third year grade students, taking into consideration of their future life after graduation, both the integration and the differentiation of the two interrelationships above mentioned are very important.

These findings were very suggestive for improvement of future student guidance and counseling in school life.

Key Words: junior high school students, questionnaire method, factor analysis, extra-curricular activity, guidance

I. 導入——問題と目的——

『中学生の学校生活への充実感に関する教育心理学的研究』との標題のもとに、その一環としておおむね次のような内容について検討してきた。すなわち、

①現代の中学生が「今の学校生活に対して、充実感ないし満足感をどんな側面についてどんな形でもっているのか？」を中心に、学校生活全般や、指導者としての教師がなんらかの教育的意図のもとに企図し、計画してきた特別活動の一環としての集団的活動に対してもっている意識などについて質問紙法等で調査してきた。それは、直接的な回答の結果について吟味・検討を加えて、生徒達にどのような形で還元し、指導・援助などをいつ、どこで、どんな方法で入れているのが適切かを教師自身が過去の指導との関係で卒直に反省し、生徒の充実感保持の改善や向上に資するためのものであった。具体的には、京都府下舞鶴市内の一公立中学校の生徒を対象とし(約450名：各学年ともほぼ150名)、結果を分析して若干の考察を加えた。([『中学生への充実感に関する教育心理学的研究(1)——学校生活への意識・行動と満足感——』, 1990, 一谷・相田・水谷)

②上記①の発展的なものとしての吟味・検討を加えた。つまり、学年当初(具体的には第1学期末：7月)での学校生活への充足感・満足感を問うたのち、学校が教育的意図をもって計画した特別活動等がどのように意識されているかも質問紙的に調査したが、さらに重要な吟味・検討の内容として、学年途中(第2学期末：12月)に再調査を行い、学年当初とどのように変容しているかをみることとした。同時にその背景となる理由づけなどについても問うた。その結果、対教師関係、友人関係、学習(教科)、クラブ活動その他の特別活動等々について、指導者としての教師のあり方や役割、教育的意図をもって計画される種々の行事的活動などについて、さらに学校生活に充実感がもてるようにするための改善的、反省的な課題や示唆をもたらした。

これらに加えて、第1回目調査(7月)と第2回目調査(12月)とを因子分析的に検討した結果、学年毎に充足感の様相に相異があることが示唆された。同時に、学年毎に充実感・充足感に関する背景が異なることも因子分析的に示され、学年に応じて「個」と「全体(集団)」に対して、それぞれに対応した指導をどんな形で、いつ導入するのかに示唆を与えた。『中学生の学校生活への充実感に関する教育心理学的研究(2)——学校生活への充実感・満足度の再調査による変化を中心に』、1990、一谷・相田・水谷)

③学校生活への充実感や充足感が持ちえず、いわば適応障害の典型的な課題として、現在の中学校で広く一般的にクローズ・アップされているものは、長期欠席生徒の精神的環境(内的過程や外的過程を含めて)の問題である。そこで、京都府下舞鶴市内の公立中学校全体の昭和61年度の長期欠席生徒(ここでは30日以上とした。)78名についてその実態にアプローチ、問題点と内面的理解に努め、今後の学校生活での理解・指導・援助等のあり方について理論的・实际的に検討・吟味した(『長期欠席生徒の問題理解と指導・援助』、1989、一谷・相田・水谷)

以上の研究過程のなかで、いくつかの問題点が明らかとなってきた。

結論的かつ端的に言えば、その問題点のひとつは、「調査1」(7月時点のもの)には、ある意味で多樣的、多面的な内容の項目が含まれているので、これについて、一対一に対応した説明や吟味、考察を加えても必ずしも科学的とはいえないような非一貫性がみられる危険があるということである。科学的という以上は、“記述の科学的経済”が貫かれていること、心理学的に言えば、調査項目に反応したり回答したりするさいの、その背景にあるもの、共通的な動機なり欲求なりを探索することが望まれるわけである。この点に関しては、項目間(設問間)の相互相関行列から出発して、それに因子分析的検討を加えることで、多くの項目間に共通した背景的次元のものを抽出することにより、より深い、かつ一貫性のある解釈を行うことが可能と考える。

しかしながら、質問項目(設問)間の相互相関(相関行列)から出発して因子分析的検討を加えたとき、抽出された因子行列からの因子構造ないしは因子パターンは、種々の反応(ここでの研究の場合ならば質問項目ないしは設問への回答ということになる。)の内的過程としての背景にあるもの、動機なりあるいはより深い水準の内的構造に対応するものだろうか。

この点に関しては、厳密には2つの見解がある。すなわち、

- ①相互相関行列から出発して求められた最終的因子解は、数的操作の結果としてもたらされたものであって、それ以上の何ものでもないという見解である。
- ②今ひとつは、因子分析的に誘導された因子行列からの因子構造(または因子パターン)は反応相互間の背景となる内的過程または心理的過程を示唆するもので、種々の反応の動機的水準ないしはそれに対応するものを示唆的に誘導していると考えてよいという見解である。

これまでの理論的観点や、あるいはこの技法(因子分析法)を利用した研究が比較的多かった私たちの研究の経験的観点などを考慮してみると、上記の2つの見解は対峙したり対立したりするものではないと考えている。それは次のような理由による。

相関係数の誘導者として著名なカール・ピアソン(Karl Pearson)は、名著「科学概論」(Grammar of Science: ピアソン著、平林初之輔訳、世界大思想全集41、科学概論、昭和5年(1930)、春秋社刊)のなかで大要次のように述べている。自然科学のとるべき最も単純ながら純粋な方法は、

- ①事象の忠実な観察(faithful observation)
- ②観察事象の分類(classification)
- ③原理・法則性の誘導(principles or laws)

である。因子分析法は、考えてみると、このピアソンの提唱している段階のなかで②の段階に相当するものと思われる。あくまでも分類のための手段であり道具なのである。だから、因子分析法で誘導された因子行列は、何らかの基準で分類していることは確かなのだが、そこから直ちに原理性や法則性のあるものを導出しているどうかについては、慎重でなければならない。私どもの見解では、因子行列として誘導されたものは、何らかの仮説構成体 (hypothetical constructs) 的なものとして対応した方が妥当なのではないかと考える。今日では、因子行列からさらに進めて各被験体 (被験者) の因子得点を誘導することが十分可能になっているので、特定因子にのみ因子得点の高い (または低い) 被験者を集めて、実験室的実験等によって反応傾向を精査し、上に述べた仮説構成体的なものへの特質や特徴を吟味する方が穏当ではないかと考える。このようにして、私どもは、因子行列そのものは、何らかの基準で事象や反応を分類しているがそれを仮説的なものと考え、さらに、実験的検討を加えることではじめて原理的なもの、法則的なもの、あるいは仮説検証へと近づくことができると思う。このように、分類された結果誘導された因子を仮説構成体的として考えておく方が妥当であると現段階では考えている。

このような考え方と同時に因子分析法を、私どもは以下のように考えて利用することが比較的妥当ではないかと考えている。すなわち、一般に我々が観測的に可能なものは、どのような方法をとるにしても (観察法、調査法、実験法等々)、キャッテル (Cattell, R. B.) 流に言えば、

$$R = f(S, O)$$

〔この式で、Rは反応 (response)、Sは刺激 (stimulus)、Oは生体 (organism) を示し、RはSとOとの関数関係 (function) として成り立つことを示している。〕

とされており、一般的には分散分析法と対比することで比較的理解可能ではなかろうか。

分散分析法では、このキャッテルの式のうち、SやOを統制 (制御) して独立変数的に扱い、仮説ないし仮説構成体としての過程を考えて従属変数としてのRの測定値を処理し、ふつうにいわれるF-検定で処理する。実験デザインが明確化されておれば、検討しようとする仮説も従って明確化されていることになる。しかし、我々の日常生活での反応はSやOでは統制され得ないような多様な外的刺激や内的刺激・内的過程によって派生している場合も多いわけである。確かに分散分析にかけることのできる実験は、心理学研究法のうちでも最も実験らしい実験であって、実験心理学の最も大切にしているものであることを否定するものではない。そして、それによって仮説を検証して、原理的、法則的なものを誘導することは極めて重要かつ価値ある方法の最たるものである。けれども、反応を多様に、多角的に、多数に収集して、そのデータを因子分析的に処理して、SやOの側面に接近することも、一面では意義のあることである。ただその際に、因子分析で誘導されたものを、即座にSやOの側のものと考えすることは早計であることに注意を要する。先にも少し触れたように、因子分析法はあくまで分類のための手段・道具であるから、そこに誘導された因子をひとつの仮説的段階のもの (または仮説構成体的なもの) と考えて、因子得点などを求めて、特徴的に因子得点の高い (あるいは低い) 被験者 (被験体) を集めて、実験的検討を加えてはじめて、因子の意味が明らかになると思う。因子分析的技法を用いる研究では、因子を抽出することで事足りるという研究が多いが、私どもの見解では、因子分析はあくまで分類のための手段・道具であって、抽出された因子は数的操作の結果誘導されたものであり、精々仮説を設定したり、仮説構成体的なものをセットしたとひかえ目に考えておく方が穏当のように思う。

しかし、因子分析法には、仮説検証的因子分析や探索的因子分析等々があり、また、因子の妥当

性検討のためにも用いられることもあるので、それぞれの研究に対応して、相関を分析するのに（相互相関を求める際に）パイロット的なものを挿入しておくことも必要となることがある。因子の命名は今まで述べてきたような手続き的経過を経てはじめて可能になるものと考えている。

以上にみてきたような観点からすると、我々が今まで『中学生の学校生活への充実感に関する研究』という標題のもとに検討してきたものをふり返ってみて、上に述べた諸点について、必ずしも十分でないように思われる面がある。『研究（1）』では、生徒の学校生活への充実感が確かに充足されているかどうかの検討のために意識調査を実施してその結果に検討を加えた。『研究（2）』では、「調査1」（7月時点・第1学期末）と「調査2」（12月時点・第2学期末）とにほぼ同一の内容の意識調査を実施して、学校が意図する特別活動等（行事、集团的活動等）がたしかに教師の企画した方向性をもった積極的な効果をもたらしているかを検討した。加えて、充実感をもたらしたりそうでなかったりすることへの理由づけなどについてもたずねた。同時に、7月時点と12月時点での共通質問項目（設問）のうちから選択的にとりあげて、各時点毎に別々に因子的検討を試みた。（これとは逆に、長期欠席生徒について一応、充実感が十分にもちえない背景はなにかを検討するための吟味をしてきた。）

すでに最初の段階でも述べたように、こうした研究経過を経て、教育的仮説を設定して吟味・考察を加えてきたが、多少とも矛盾したり、脈絡的にみて一貫性を欠いた面もなくはないと考えられる点もあった。そこで今回は、7月時点（第1学期末）の「調査1」について、全調査項目（設問）について相互相関を求めて因子分析にかけて、各学年（1，2，3年）毎にどのような因子構造や因子パターンを示すから、教育的示唆（生徒指導的、相談的なものを含めて）を得たいと考えた。

以上のようなことから、今回は、中学生に対して、学校生活に充実感を積極的にもてる方向の理解・指導・助言ないし相談をしていくにはいかようにすればよいかの基礎的示唆を得るために、年度当初（具体的には第1学期末で7月時点）に実施した調査項目（設問）全体について学年毎に因子分析的検討を加えて、さらに生徒指導・相談を深化させるために、生徒からの示唆を得、指導者としての教師の改善点や反省点を吟味・検討するための資料としたいというのが本研究の目的である。

II. 方 法

1. 被験者：

京都府下舞鶴市内の市立 W 中学校の1年生69名、2年生140名、3年も138名である。（いずれも昭和62年度（1987年度）在学中の生徒である。）

2. 調査時期：

昭和62年度の第1学期末（7月）に実施。年度当初に実施すべきとも考えたが、ある程度学年当初の学校生活の経験を経て、種々の教育活動が落ちついた時点で実施する方が妥当と考えたためである。特に1年生の生徒については、中学校での生活がいろいろの面で新しい経験であることも多いだろうということにもよる。

3. 調査方法と調査項目：

学校生活に充実感が持てる状態にあるかどうかを確かめるために、その軸になる質問項目として“学校が楽しいか”どうかをたずねたのち、学校生活全般についてたずねることにした。

ここでは、こうした視点から調査項目は、学校に対する充実感や満足感に対するもの9項目、集

表1 「調査1」（7月時点）の質問項目と内容

学校生活についての調査 1	
和田中学校・調査研究部	
ね ら い この学校生活についての調査は、生徒のみなさんと協力して、よりよい豊かな学校をつくるための資料とします。 名前はいりません。学年と組、男女の別だけ、答えの用紙 にかいてください。 ですから、声をだしたり、横の人と話したり相談したりせずに、まじめに、自分の思ったとおり答えてください。 ◎答えを書くときの注意 答えはすべて、べつ々の 答えの用紙 に記号と一部言葉で書いてください	
問1 あなたは、学校が楽しいですか。	ア、とても楽しい イ、楽しい ウ、あまり楽しくない エ、全然楽しくない
問2 あなたは、今、学校の勉強がわかりますか。	ア、よくわかる イ、だいたいわかる ウ、あまりわからない エ、ほとんどわからない
問3 あなたは、今、友達との関係はどのようになっていますか。	ア、うまくいっている イ、だいたいうまくいっている ウ、あまりうまくいっていない エ、全然うまくいっていない
問4 あなたは、今、先生との関係はどのようになっていますか。	ア、うまくいっている イ、だいたいうまくいっている ウ、あまりうまくいっていない エ、全然うまくいっていない
問5 あなたは、自分の学級についてどう思いますか。	ア、たいへんよい イ、よい ウ、あまりよい エ、全然よい 学級である 学級である 学級でない 学級でない
問6 あなたは、入部しているクラブ活動についてどう思いますか。	A、入部していない ア、たいへんよい イ、よい ウ、あまりよい エ、全然よい クラブである クラブである クラブでない クラブでない
問7 あなたは、学校生活のなかで、夢中になったり、打ち込んで取り組むこと（勉強、クラブ活動、生徒会・学級の仕事、行事・自主活動、など）がありますか。	ア、いつもある イ、ときどきある ウ、あまりない エ、全然ない
問8 問7で「ア、いつもある」「イ、ときどきある」と答えた人は、どんなことに夢中になったり、打ち込んで取り組んでいるのですか。次の中から1つえらんで下さい。	ア、授業 イ、朝のドリルなど授業以外の学習 ウ、クラブ活動 エ、生徒会・専門委員会の仕事 オ、班・学級の仕事 カ、体育祭 コ、野外活動・修学旅行 ク、ギネスなど自主活動 ケ、文化祭 コ、友達との会話 サ、先生との会話 シ、その他
問9 あなたは、学校以外に、夢中になったり、打ち込んで取り組むこと（家族との対話、学外の文化・スポーツクラブ、塾の勉強、おけいごなど、自分の趣味、学校外の人との対話、その他の遊び、など）がありますか。	ア、いつもある イ、ときどきある ウ、あまりない エ、全然ない
問10 自分の班や学級の仲間が、学校の中で、やっていることは、だいたい知っていますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問11 自分の班や学級の仲間が、今、どんなことを考えているか知りたいと思いますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらでもない
問12 あなたは、学校の中に、気楽に話せる友達がいいますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問13 自分の班や学級からはみだす仲間が出てくことは、学級全体の問題だと思いますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問14 自分の班や学級の仲間が、よくないことをしていたら注意したいと思いますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問15 自分がよくないことをしていたら注意してくれる友達がいますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問16 機会があれば、自分の班や学級のために、役立つことをしたいと思いますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問17 自分の班や学級がうまくいっていない時は、話し合って解決したいと思う。	ア、はい イ、いいえ ウ、どちらともいえない
問18 あなたは、生徒会の役員や学年委員をどのように選びましたか。	ア、とても イ、だいたい ウ、すこし エ、まったく しっかり しっかり いいかげんに いいかげんに 選んだ 選んだ 選んだ 選んだ
問19 あなたは、今の生徒会の役員や学年委員の人はみんなの代表としての役割をはたしていると思いますか。	ア、とても イ、だいたい ウ、あまり エ、全然 はたしている はたしている はたしていない はたしていない
問20 あなたは、生徒会の活動が活発になることと、学校がよい方向に進んでいくことは関係があるとおもいますか。	ア、とても イ、関係がある ウ、あまり エ、全然 関係がある 関係がある 関係がない 関係がない
問21 あなたは、今の生徒会の活動が、生徒の願いや要求にもとづいてとりくまれていると思いますか。	ア、そのとおりの イ、だいたいそう ウ、あまりそう エ、全然そう なっている なっている なっていない なっていない
問22 あなたは、生徒会（本部・専門委員）、学年委員会や学級のとりくみで、クラブや他のことができなくて「いやだなあ」と思ったことがありますか。	ア、いつもそう イ、時々そう ウ、あまりそう エ、全然そう 思う 思う 思わない 思わない
問23 あなたは、生徒会や学年委員の行事やとりくみに自分なりに協力していますか。	ア、たいへん協力 イ、だいたい協力 ウ、あまり協力 エ、全然協力 している している していない していない
問24 あなたは、学校での行事的な活動（たとえば、野外活動、修学旅行など）に参加した時、活動の目標・めあてを理解して参加しましたか。	ア、じゅうぶん理解 イ、だいたい理解 ウ、あまり理解 エ、全然 していた していた していなかった していなかった
問25 あなたは、学校での行事的な活動のとき、規則・きまりが厳しすぎると思いますか。	ア、いつもそう イ、時々そう ウ、あまりそう エ、全然そう 思う 思う 思わない 思わない
問26 あなたは、学校での行事的な活動のとき、ほとんどの人が何かの役割をもって取り組んでいると思いますか。	ア、いつもそう イ、だいたいそう ウ、あまりそう エ、全然そう なっている なっている なっていない なっていない
問27 和田中ギネスに挑戦できる集団は、学年、学級、クラブ、生徒会本部、学年委員、専門委員会などで、夏休みなどには個人の部があることを知っていましたか。	ア、はい イ、いいえ
問28 和田中ギネスの目的は「自分達のもっている創造性や意欲を引き出し、生活の中に主体性と団結の喜びや力を確かめ合う。」とありますが、正確には知らなくても、だいたいの考え方は知っていましたか。	ア、はい イ、いいえ
問29 ギネスのとりくみは、学校生活をよりよくしていくことに役立っていると思いますか。	ア、とても イ、役立って ウ、あまり役立って エ、全然 役立っている いる いない 役立っていない
問30 ギネスに挑戦することによって、学校のなかで自分の生活にめあてができたと思いますか。	ア、とても思う イ、思う ウ、あまり思わない エ、全然思わない
問31 ギネスに挑戦しているとき、いまだで見えなかった学級の仲間の良いところを見つけるといことがありますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、わからない
問32 ギネスに挑戦することによって、学級の仲間の協力が高まりましたか。	ア、とても イ、すこし ウ、あまり エ、全然 高まった 高まった 高まらない 高まらない
問33 ギネスのとりくみに成功したとき、あなたは、どんな気持ちでしたか。	ア、とても イ、うれし ウ、あまり エ、全然 うれしかった かった うれしく うれしく なかった なかった なかった なかった
問34 今後とも、和田中ギネスのとりくみをたいせつにしたいと思いますか。	ア、はい イ、いいえ ウ、わからない
問35 今まで、和田中ギネスの挑戦項目は、下のようになっています。今後とりくみたいと思うものを3つえらんで下さい。なお、下になくてあたりくとりくみたいことがあつたら、その他の記号を選んで、答えをかく用紙にとりくみの項目名を書いてください。	ア、全員名札 イ、全員掃除 ウ、全員運動をしない エ、全員弁当 オ、全員朝とび カ、授業中私語をしない ク、全員生活ノート ク、運動せず掃除 ケ、全員忘れ物なし コ、全員土足なし サ、全員鉛筆 シ、授業のあいさつ セ、全員ドリル セ、一人一発言 ソ、全員背栗山頂にたッ タ、全員円陣パス チ、漢字100万字 ナ、英単語100万字 テ、全員ベール ト、確認テスト全員合格 ナ、その他

和田中学校生徒会の財産

「和田中学校生徒会ギネスブック」

- 1) 目的 自分達の持っている創造性や意欲を引き出し、生活の中に主体性と団結の喜びや力を確かめ合う。
- 2) 認定基準 「みんなが力を合わせ豊かな学校生活をつくりだす」ことに積極的に意識が認められる全員参加の取り組みを確定しみんなの財産（宝）とする。
- 3) 全員参加の基礎集団 学級・クラブ・専門委員会
- 4) 認定の方法 ①基礎集団の代表者は取り組みの予告を生徒会本部にする。 ※予告用紙あり
②認定は全校の仲間に取り組みの成果を発表した後生徒協議会と先生で行う。
- 5) 認定証の発行と提示 認定証は基礎集団に対して発行すると共に職員室前の廊下にその写しを掲示していく。

※取り組んだ成果や感想は積極的に多くの仲間に紹介しよう。

（予告用紙）（例）

生徒会本部へ 昭和59年 月 日
私達のクラスは 月 日より1週間
全員遅刻なしの取り組みに挑戦いたします。
年 組 代表

プリント
例 全校集会で発表
など工夫しよう

（和田中ギネス挑戦の歩み）

挑戦事項	年組	
1 会 員 名 札	1-2	5/22～ 5/29 ×
2 全員掃除をさぼらない	1-2	5/22～ 5/29 ○
3 全員遅刻なし	1-2	5/22～ 5/29 ○
4 全 員 名 札	3-1	5/28～ 6/ 2 ×
5 全 員 名 札	3-4	5/28～ 6/ 2 ×
6 全 員 弁 当	3-3	5/28～ 6/ 2 ×
7 全員なわとび	2-2	5/28～ 6/ 4 ○ 21回
8 全 員 弁 当	1-1	5/28～ 6/24 ○
9 私 語 の 追 放	2-4	5/28～ 6/ 9 ×
10 全 員 弁 当	1-3	6/ 1～ 6/30 ○
11 全員生活ノート	障 蔽	5/28～ 6/30 ×
12 朝、全員遅刻せず登校し、本館の廊下・階段の掃除をする	障 蔽	5/28～12/24 ○
45 全員なわとび	1-2	10/23～10/30 × 27回
46 班の中で毎日1人1発言	1-4	10/30～11/12 ×
47 全 員 名 札	1-2	10/31～11/13 ○
48 全員青葉山山頂に立つ	3-1	11/ 1 ○
49 全員青葉山山頂に立つ	3-2	11/ 1 ○
50 全員青葉山山頂に立つ	3-3	11/ 1 ○
51 全員青葉山山頂に立つ	3-4	11/ 1 ○
52 全員青葉山8回目まで登る	障 蔽	11/ 1 ○
53 班の中で毎日1人1発言	1-4	12/ 3～12/ 6 ○
54 円陣バス100回	1-3	12/21 ×



図1 和田中ギネスの取り組み

表2 設問間の相関係数（r）と検定の表（1年生）

設 問		問1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15
		学校が楽しい	勉強がわかる	友人とうまくいっている	先生とうまくいっている	よい学校である	よいクラブである	学内・打ち込むことがある	学外・打ち込むことがある	仲間の行動を知っている	仲間の考えを知りたい	学内に話せる友人がいる	はみ出す仲間が学級全体	仲間のよくないことを注	注意をしてくれる友人が
問1	学校が楽しい														
2	勉強がわかる	** .344													
3	友人とうまくいっている	** .362	* .242												
4	先生とうまくいっている	** .457	** .333	.233											
5	よい学級である	** .348	** .355	.125	** .505										
6	よいクラブである	** .345	* .141	* .260	-.030	.037									
7	学内・打ち込むことがある	** .450	* .220	* .257	.099	.097	** .329								
9	学外・打ち込むことがある	** .480	* .266	.105	.189	.175	.130	** .541							
10	仲間の行動を知っている	** .220	* .305	.186	** .381	* .334	.122	.172	.202						
11	仲間の考えを知りたい	** .319	* .256	** .426	* .267	.142	-.087	.195	* .302	* .240					
12	学内に話せる友人がいる	.020	.018	** .518	.040	-.183	.033	.139	-.046	-.128	.180				
13	はみ出す仲間が学級全体の問題だ	.158	.154	.090	** .412	* .286	.020	.150	.127	.136	.028	-.024			
14	仲間のよくないことを注意したい	.231	* .264	.149	* .304	** .326	-.177	.106	.162	** .400	* .252	.124	.156		
15	注意をしてくれる友人がいる	** .454	.102	** .368	.187	.215	.165	* .251	.120	.050	.139	.228	.222	* .296	
16	学級のために役立ちたい	** .546	* .298	.234	** .344	** .403	.145	** .415	** .344	** .333	.198	-.011	.222	** .314	* .280
17	学級の問題は話し合いで解決したい	* .304	.195	** .332	** .473	* .256	-.065	.142	.231	.226	* .280	* .242	** .600	** .491	** .442
18	生徒会役員をしっかり選んだ	.214	.138	.120	** .537	** .397	.032	.042	.016	* .277	* .252	.166	.165	** .356	.188
19	生徒会役員は役割を果たしている	.117	* .267	.109	* .269	.193	* .257	.072	.132	.216	.051	.110	** .416	* .284	.141
20	生徒会が活発なら学校はよくなる	** .399	.042	.011	** .350	.227	-.065	.078	* .283	** .248	** .323	-.196	** .315	.130	* .249
21	生徒会は生徒の要求で活動している	* .267	.179	.062	.137	.040	.233	.129	* .293	** .333	.126	.059	.180	.220	.204
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う	-.025	-.058	.133	-.206	-.331	-.022	-.053	.125	-.131	.061	.215	* .243	-.115	-.073
23	生徒会の取組に協力している	* .260	** .333	.156	** .357	* .300	.066	.229	.154	.230	* .280	.065	.107	.180	.055
24	学校の行事の目的は理解している	* .248	* .280	* .288	.174	.123	.198	-.039	-.028	.166	* .246	-.009	.193	-.023	.167
25	学校の行事は規則が厳しすぎる	** .389	** .339	-.231	** .444	-.229	-.189	* .291	* .300	** .414	** .361	.080	-.219	-.101	.016
26	学校の行事は皆が役割を持っている	** .339	.052	.141	.124	** .323	.150	.134	.165	.134	.058	-.042	.125	* .277	** .344
27	ギネスに挑戦する方法を知っている	* .259	-.050	.074	-.160	.042	* .304	.187	.111	-.021	.089	-.073	-.036	.168	.167
28	ギネスの目的は理解している	** .325	.202	.144	** .352	* .306	.047	.170	.036	* .270	.211	.050	* .296	.104	** .323
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ	** .446	* .338	* .248	** .528	** .544	.052	.140	.176	** .390	.213	.047	** .473	* .437	** .371
30	ギネスによって生活にめあてができた	* .251	.177	.164	* .258	** .429	.194	.011	.091	.149	.129	.136	.197	** .336	** .335
31	ギネスを通して仲間を再発見した	** .379	.214	.212	** .490	** .559	.123	.174	* .290	* .251	.228	-.076	** .496	.224	* .305
32	ギネスで学級の協力性が高まった	** .417	* .300	.134	** .463	** .643	.174	.174	.215	** .479	.141	-.102	.191	** .400	.221
34	今後もギネスをたいせつにしたい	** .391	.200	** .323	* .370	* .348	* .242	** .347	* .288	.174	** .361	.040	** .328	.119	* .307

(* ……5.0%の危険率で有意。
* * ……1.0%の危険率で有意。)

[illegible]

(1年生 69人 (2クラス抽出))

表3 設問間の相関係数(r)と検定の表(2年生)

設問	設問	問1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15
		学校が楽しい	勉強がわかる	友人とうまくいっている	先生とうまくいっている	よい学校である	よいクラブである	学内・打ち込むことがある	学外・打ち込むことがある	仲間の行動を知っている	仲間の考えを知りたい	学内に話せる友人がいる	はみ出す仲間は学級全体の問題だ	仲間のよくないことを注意したい	注意してくれる友人がいる
問1	学校が楽しい														
2	勉強がわかる	.052													
3	友達とうまくいっている	** .488	-.017												
4	先生とうまくいっている	** .366	** .269	** .304											
5	よい学級である	** .481	-.026	** .386	** .260										
6	よいクラブである	** .346	.090	.295	.379	** .316									
7	学内・打ち込むことがある	** .274	** .323	.102	.292	.085	** .311								
9	学外・打ち込むことがある	* .186	* .193	.017	.042	* .178	-.014	** .229							
10	仲間の行動を知っている	* .196	.026	.142	.115	** .244	.240	-.013	-.040						
11	仲間の考えを知りたい	** .271	.112	.145	.312	** .219	.151	.122	** .233	* .214					
12	学内に話せる友人がいる	** .394	-.062	** .425	** .343	** .346	** .248	* .176	.065	.138	** .255				
13	はみ出す仲間は学級全体の問題だ	** .257	-.028	.147	.232	.250	* .211	.151	.158	.060	.105	** .243			
14	仲間のよくないことを注意したい	.149	-.020	* .173	* .202	.155	* .211	.112	.056	.135	.124	* .205	** .401		
15	注意してくれる友人がいる	* .212	-.023	** .310	.110	* .204	** .368	* .191	.035	.141	.018	** .321	.222	** .341	
16	学級のために役立ちたい	** .364	.075	.137	* .196	.282	** .228	** .360	.243	* .203	** .242	.257	** .235	** .251	** .303
17	学級の問題は話し合いで解決したい	** .377	.077	** .299	** .295	* .315	.224	.142	.120	.141	** .390	** .304	.395	** .319	.158
18	生徒会役員をしっかり選んだ	** .338	.092	** .317	** .265	.249	** .355	.147	.050	.150	* .187	** .249	.234	** .347	** .266
19	生徒会役員は役割を果たしている	** .328	-.063	.262	.295	.345	** .223	.138	.056	.000	* .196	** .268	.344	** .302	.131
20	生徒会が活発なら学校はよくなる	* .269	.061	* .237	.310	.273	* .360	.190	.130	.119	.137	** .338	** .419	** .254	.128
21	生徒会は生徒の要求で活動している	** .298	-.115	.100	.195	** .291	* .216	.084	.129	.094	.151	.035	** .311	* .218	.051
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う	-.091	* .177	* .185	.049	-.174	.103	.208	* .195	-.156	-.170	.015	.024	.029	.010
23	生徒会の取り組みに協力している	** .422	.075	** .258	.254	.485	** .245	.159	* .219	* .170	** .300	** .408	.317	** .311	.216
24	学校の行事の目的は理解している	** .363	.005	** .252	* .188	.310	.278	.137	.157	** .222	* .249	** .276	* .200	** .278	.152
25	学校の行事は規則が厳しすぎる	-.138	-.121	-.092	-.060	.134	-.061	-.179	-.038	-.013	-.113	-.198	-.134	-.014	.045
26	学校の行事は皆が役割を持っている	.122	-.091	.151	* .188	.208	* .211	-.025	-.119	** .282	.118	** .241	* .210	.112	** .221
27	ギネスに挑戦する方法を知っている	** .263	-.021	** .366	.179	.292	.150	.071	.007	** .274	* .224	** .292	* .167	.095	.004
28	ギネスの目的は理解している	* .213	.049	* .174	.135	.228	* .193	* .213	.046	.150	.159	.095	** .231	.111	.160
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ	.281	-.049	.139	.213	.339	** .293	.083	.047	.126	.135	** .231	* .374	** .236	.150
30	ギネスによって生活にめあてが生まれた	** .431	.006	* .212	** .329	.334	** .378	** .393	** .227	.133	** .232	** .347	* .416	** .319	** .258
31	ギネスを通して仲間を再発見した	.162	.047	* .185	** .238	.155	** .293	.111	* .173	* .177	.160	** .233	.351	** .297	** .296
32	ギネスで学級の協力が高まった	** .242	.017	* .215	.352	.225	** .391	.255	.016	.088	.137	** .333	.378	** .311	** .250
33	ギネスに成功してうれしかった	** .340	-.051	** .254	* .274	.328	.253	.226	* .199	* .183	** .302	.311	** .416	** .338	** .273
34	今後もギネスをたいせつにしたい	** .340	-.030	* .203	* .210	.275	.245	.107	* .182	* .208	** .354	.287	** .491	** .379	** .253

(* ……5.0%の危険率で有意。
* * ……1.0%の危険率で有意。)

(2年生 140人 (全4クラス))

表4 設問間の相関係数 (r) と検定の表 (3年生)

設 問		問1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15
		学校が楽しい	勉強がわかる	友人とうまくいっている	先生とうまくいっている	よい学校である	よいクラブである	学内・打ち込むことがある	学外・打ち込むことがある	仲間の行動を知っている	仲間の考えを知りたい	学内に話せる友人がいる	はみ出す仲間が学級全体の問題だ	仲間のよくないことを注意したい	注意してくれる友人がいる
問1	学校が楽しい														
2	勉強がわかる	** .284													
3	友達とうまくいっている	** .394	* .201												
4	先生とうまくいっている	** .338	** .309	** .337											
5	よい学級である	** .383	* .203	** .289	** .254										
6	よいクラブである	* .194	.183	** .276	** .293	.091									
7	学内・打ち込むことがある	** .286	.097	** .233	** .300	* .185	** .419								
9	学外・打ち込むことがある	* .185	.031	.053	.071	.027	.032	* .203							
10	仲間の行動を知っている	** .250	-.061	.146	.104	* .194	.154	* .203	.002						
11	仲間の考えを知りたい	** .257	.027	.102	* .213	.059	.101	.154	-.020	** .272					
12	学内に話せる友人がいる	** .288	.116	** .318	* .181	* .206	.127	* .210	.167	** .220	** .270				
13	はみ出す仲間が学級全体の問題だ	** .267	-.023	* .181	.256	.133	.129	* .201	.059	.115	.149	* .182			
14	仲間のよくないことを注意したい	** .279	.116	** .232	** .299	.323	.119	* .315	.096	** .245	.162	* .186	* .168		
15	注意してくれる友人がいる	** .430	.101	* .206	* .291	* .259	* .292	.335	* .249	** .343	* .217	** .358	.094	** .413	
16	学級のために役立ちたい	** .276	.024	* .201	.153	.146	.162	** .362	* .191	* .245	* .179	* .183	** .349	** .399	** .338
17	学級の問題は話し合いで解決したい	** .379	.106	** .255	* .218	.262	.108	** .262	* .265	** .268	** .281	* .187	** .383	** .422	** .377
18	生徒会役員をしっかりと選んだ	** .332	** .229	.130	** .224	* .317	.147	* .190	.158	.088	.064	** .325	* .193	** .368	** .398
19	生徒会役員は役割を果たしている	.093	.148	-.005	* .179	.235	.245	.128	.014	.056	.046	.162	.045	.151	.137
20	生徒会が活発なら学校はよくなる	** .264	.113	* .194	** .261	.224	** .225	* .201	.036	* .196	* .172	** .296	** .283	** .286	** .329
21	生徒会は生徒の要求で活動している	** .249	* .179	.166	** .227	* .269	** .230	.115	.053	* .173	** .274	** .225	* .161	* .176	** .281
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う	.007	.058	.082	.036	.051	.159	** .337	-.003	* .174	-.040	** .258	-.077	.144	.132
23	生徒会の取り組みに協力している	** .221	.207	.136	** .269	* .187	.112	* .178	-.030	** .238	.113	** .283	* .198	** .387	** .328
24	学校の行事の目的は理解している	** .348	** .302	** .233	** .264	.167	.178	.135	.147	.126	.065	* .216	** .234	* .210	** .316
25	学校の行事は規則が厳しすぎる	** .312	-.088	-.115	-.253	-.192	-.001	-.028	-.083	-.087	-.166	-.181	* .208	-.234	-.231
26	学校の行事は皆が役割を持っている	.028	.019	.053	.048	.044	** .243	.167	.025	.122	.031	-.014	.052	* .174	* .219
27	ギネスに挑戦する方法を知っている	** .247	-.005	.066	.074	* .200	.017	.064	.056	.065	.080	.031	-.022	.121	.048
28	ギネスの目的は理解している	** .237	.033	.148	* .178	-.040	.042	.124	.091	.015	.083	.014	.152	.103	.144
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ	* .201	.024	.164	** .258	.147	** .291	* .218	.156	.158	.071	.152	* .176	** .243	** .279
30	ギネスによって生活にめあてが生まれた	.160	.099	.110	** .229	.099	.124	* .195	-.019	* .203	.121	.094	* .180	.161	** .252
31	ギネスを通して仲間を再発見した	** .309	.081	.089	* .175	** .296	.068	** .262	.156	** .268	.187	** .221	* .208	** .236	** .234
32	ギネスで学級の協力が高まった	* .211	.093	.070	* .210	.272	** .269	** .286	.029	** .301	.140	.060	.120	** .323	** .306
33	ギネスに成功してうれしかった	** .349	.102	** .285	** .304	.282	.101	** .324	.085	** .284	** .267	* .168	** .269	** .244	** .296
34	今後もギネスをたいせつにしたい	** .343	-.061	.159	** .302	* .172	.160	* .197	.071	.076	.162	.146	** .432	* .274	** .293

{ *.....5.0%の危険率で有意。
* *.....1.0%の危険率で有意。 }

[illegible]

(3年生 138人 (全4クラス))

団活動への意識に関するもの26項目(このうち8項目は生徒の仲間意識に関するもの、9項目は生徒会や行事的活動など特別活動への意識に関するもの、残りの9項目は「W中ギネス」の取り組みへの意識に関するものとなっている。)とした。質問紙による調査法で、各質問項目について一般的には4件法でそのうちの1つを選択して回答するという形式となっている。

具体的内容は表1に示すとおりである。なお、上に述べた「W中ギネス」の取り組みの具体的内容は図1に示すとおりであるが、これは、いわゆるギネス・ブックなどに示唆を得て、学校生活に充実感がもて、また、生徒間の友人関係や仲間関係を望ましい方向に伸張させることが青年前期には大切と考えた教育的意図による特別活動の一環である。(この詳細については、参考文献(章末に掲載)を参照されたい。)

なお、調査日は昭和62年7月15日で、学級会活動の時間に約30分間を費して、学級担任が各学級毎に実施した。

III. 結 果

以上の調査項目について各学年毎に相関関係を求めたのが表2(1年生)、表3(2年生)及び表4(3年生)となっている。なお、素データからの相関関係の算出、因子分析についてはすべて、NEC PC-9801の計算機を使用、Micro Softのパッケージを用いて解析した。ついであるが、1年生の場合は、諸般の事情で2クラス(69名)となり、調査項目33(「ギネスに挑戦して成功したときどんな気もちだったか?」)については、入学後間もないことで、十分に体験されていないことなどを配慮して回答から削除した。したがって実際に分析の対象とした有効資料は、1年生69名(2クラス分)、2年生140名(4クラス分)、3年生138名(4クラス分)となっている。

表2、表3、表4の各学年の相互相関表(相関行列)から、先づ主因子法(Principal Factor Method)で初期解を求めた。この際、相関行列の対角線値には各列の、絶対値の最大のものを挿入して推定値とした。

その結果は表5に示すとおりである。

通常は固有地1.000あたりを目安として因子抽出を中止するのが妥当とされているので、2年生と3年生についてはその方式に従った。1年生では、この方式に従うと第6因子まで抽出されるこ

表5 初期解(主因子法による)の寄与量と寄与率

因子	学年 寄与	1 年		2 年		3 年	
		寄与量	寄与率(%)	寄与量	寄与率(%)	寄与量	寄与率(%)
1		8.211	25.66%	8.754	26.53%	7.014	21.25%
2		2.009	6.28	1.464	4.44	1.281	3.88
3		1.524	4.77	1.353	4.10	1.200	3.64
4		1.448	4.53	0.979	2.97	1.035	3.14
5		1.218	3.81	0.849	2.57	0.891	2.70
6		1.019	3.18	0.763	2.31	0.721	2.18
7		0.904	2.83	0.628	1.90	0.669	2.03
8						0.639	1.94

(繰返し: 640)

(繰返し: 660)

(繰返し: 660)

とになるが、ここで述べた主因子法で初期解を求めた結果の因子行列を精査すると、第5因子や第6因子では、特定項目にのみ因子負荷が高く、その他の項目はほとんど因子負荷を示さず有意に達するものが見当らなかったため、第4因子までで因子抽出を打切ることとした。なお、各学年の因子寄与率(%)を見てみると、1年生では第4因子と第5因子の間に、2年生では第3因子と第4因子の間に、また、3年生では第4因子と第5因子の間に、それぞれ比較的大きな寄与率の差があることもうかがえるので、上記のような形で因子抽出を打切って最終解を求めることとしたことも付言しておく。

さて、以上のような根拠に基づいて、次に最終解を誘導するため、ここではバリマックス回転(Varimax Rotation)を行った。その結果を示したのが表6-1(1年生)、表6-2(2年生)、

表6-1 最終的因子構造(1年生)

設 問		因 子			
		I	II	III	IV
問1	学校が楽しい	0.214	0.548	0.215	0.438
2	勉強がわかる	0.174	0.423	0.181	0.023
3	友達とうまくいっている	0.017	0.216	0.610	0.254
4	先生とうまくいっている	0.458	0.513	0.232	-0.243
5	よい学級である	0.642	0.307	-0.004	-0.004
6	よいクラブである	0.012	0.134	0.035	0.536
7	学内・打ち込むことがある	-0.093	0.439	0.201	0.454
9	学外・打ち込むことがある	-0.064	0.565	0.091	0.281
10	仲間の行動を知っている	0.283	0.485	0.028	-0.059
11	仲間の考えを知りたい	0.034	0.431	0.349	0.030
12	学内に話せる友人がいる	-0.109	-0.146	0.698	0.056
13	はみ出す仲間は学級全体の問題だ	0.381	0.361	0.138	-0.208
14	仲間のよくないことを注意したい	0.398	0.181	0.362	-0.086
15	注意してくれる友人がいる	0.294	0.109	0.406	0.314
16	学級のために役立ちたい	0.268	0.483	0.190	0.243
17	学級の問題は話し合いで解決したい	0.373	0.388	0.451	-0.128
18	生徒会役員をしっかりと選んだ	0.544	0.113	0.299	-0.066
19	生徒会役員は役割を果たしている	0.275	0.228	0.279	-0.076
20	生徒会が活発なら学校はよくなる	0.223	0.524	-0.054	-0.031
21	生徒会は生徒の要求で活動している	0.110	0.392	0.038	0.160
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う	-0.528	-0.046	0.249	-0.012
23	生徒会の取り組みに協力している	0.290	0.233	0.265	-0.009
24	学校の行事の目的は理解している	0.279	0.254	-0.016	0.154
25	学校の行事は規則が厳しすぎる	-0.173	-0.672	0.034	-0.111
26	学校の行事に皆が役割を持っている	0.629	-0.023	0.006	0.452
27	ギネスに挑戦する方法を知っている	0.088	0.030	0.007	0.471
28	ギネスの目的は理解している	0.440	0.315	0.029	0.143
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ	0.717	0.321	0.279	-0.005
30	ギネスによって生活にめあてが出来た	0.743	-0.097	0.269	0.280
31	ギネスを通して仲間を再発見した	0.605	0.393	0.041	0.136
32	ギネスで学級の協力性が高まった	0.717	0.364	-0.044	0.213
34	今後もギネスをたいせつにしたい	0.295	0.466	0.193	0.246

及び表6－3（3年生）である。

これらの結果について、この研究では、“学校が楽しい”と感じているかどうかを、一応、充実感なり充足感と対応するものと仮定して、この項目に関係して、同次元の因子軸にどのような項目が関与（寄与）して抽出されているかをまとめて表示したものが、表7－1（1年生）、表7－2（2年生）、及び表7－3（3年生）である。

表6－2 最終的因子構造（2年生）

設 問		因 子	I	II	III
問1	学校が楽しい		0.222	0.620	0.190
2	勉強がわかる		－0.068	0.033	0.503
3	友達とうまくいっている		0.065	0.646	－0.005
4	先生とうまくいっている		0.225	0.397	0.314
5	よい学級である		0.208	0.609	－0.049
6	よいクラブである		0.273	0.397	0.259
7	学内・打ち込むことがある		0.172	0.156	0.618
9	学外・打ち込むことがある		0.136	0.074	0.360
10	仲間の行動を知っている		0.081	0.379	－0.106
11	仲間の考えを知りたい		0.166	0.399	0.096
12	学内に話せる友人がいる		0.224	0.521	0.111
13	はみ出す仲間は学級全体の問題だ		0.552	0.169	0.073
14	仲間のよくないことを注意したい		0.401	0.215	0.071
15	注意してくれる友人がいる		0.209	0.315	0.138
16	学級のために役立ちたい		0.483	0.292	0.280
17	学級の問題は話し合いで解決したい		0.434	0.424	0.073
18	生徒会役員をしっかりと選んだ		0.381	0.394	0.082
19	生徒会役員は役割を果たしている		0.545	0.290	－0.061
20	生徒会が活発なら学校はよくなる		0.696	0.192	0.095
21	生徒会は生徒の要求で活動している		0.603	0.113	－0.024
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う		－0.076	－0.228	0.452
23	生徒会の取り組みに協力している		0.468	0.478	0.080
24	学校の行事の目的は理解している		0.291	0.505	0.075
25	学校の行事は規則が厳しすぎる		－0.332	－0.024	－0.153
26	学校の行事は皆が役割を持っている		0.373	0.265	－0.185
27	ギネスに挑戦する方法を知っている		0.122	0.493	－0.119
28	ギネスの目的は理解している		0.236	0.296	0.067
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ		0.642	0.192	－0.092
30	ギネスによって生活にめあてが出来た		0.723	0.279	0.269
31	ギネスを通して仲間を再発見した		0.500	0.207	0.101
32	ギネスで学級の協力性が高まった		0.705	0.181	0.111
33	ギネスに成功してうれしかった		0.665	0.351	0.006
34	今後もギネスをたいせつにしたい		0.752	0.267	－0.033

表6-3 最終的因子構造（3年生）

設 問		因 子	I	II	III
問1	学校が楽しい		0.641	-0.066	0.268
2	勉強がわかる		0.148	0.069	0.439
3	友達とうまくいっている		0.434	-0.026	0.220
4	先生とうまくいっている		0.417	-0.135	0.321
5	よい学級である		0.376	-0.077	0.342
6	よいクラブである		0.067	-0.298	0.357
7	学内・打ち込むことがある		0.301	-0.389	0.126
9	学外・打ち込むことがある		0.244	-0.029	0.049
10	仲間の行動を知っている		0.270	-0.320	0.045
11	仲間の考えを知りたい		0.348	-0.111	0.061
12	学内に話せる友人がいる		0.380	-0.068	0.289
13	はみ出す仲間は学級全体の問題だ		0.477	-0.181	-0.030
14	仲間のよくないことを注意したい		0.443	-0.287	0.184
15	注意してくれる友人がいる		0.439	-0.312	0.293
16	学級のために役立ちたい		0.417	-0.412	-0.068
17	学級の問題は話合いで解決したい		0.540	-0.309	0.133
18	生徒会役員をしっかりと選んだ		0.305	-0.263	0.460
19	生徒会役員は役割を果たしている		-0.063	-0.169	0.589
20	生徒会が活発なら学校はよくなる		0.289	-0.444	0.331
21	生徒会は生徒の要求で活動している		0.164	-0.210	0.560
22	生徒会・学級の取り組みを負担に思う		-0.023	-0.359	0.019
23	生徒会の取り組みに協力している		0.354	-0.297	0.204
24	学校の行事の目的は理解している		0.305	-0.207	0.368
25	学校の行事は規則が厳しすぎる		-0.445	-0.104	-0.161
26	学校の行事は皆が役割を持っている		-0.089	-0.441	0.182
27	ギネスに挑戦する方法を知っている		0.222	-0.030	0.047
28	ギネスの目的は理解している		0.253	-0.182	0.021
29	ギネスは学校をよくするのに役立つ		0.149	-0.494	0.287
30	ギネスによって生活にめあてが出来た		0.135	-0.582	0.166
31	ギネスを通して仲間を再発見した		0.360	-0.379	0.114
32	ギネスで学級の協力性が高まった		0.197	-0.665	0.145
33	ギネスに成功してうれしかった		0.447	-0.546	0.024
34	今後もギネスをたいせつにしたい		0.476	-0.374	-0.075

IV. 考 察

以上のような結果に基づいて、主として、表7（表7-1，7-2，7-3）を中心に、表6（表6-1，6-2，6-3）を参考にしつつ考察を加えてみたい。

1. 中学1年生の場合：

まず、表7-1から、1年生の場合についてみてみよう。因子IIで、「学校が楽しい」（設問1）は0.548の負荷量をもって関与している。この因子IIの軸に大きく負荷をもっている項目は、「学校

表7-1 「学校が楽しい」ことに寄与する因子 (1年生)

1. 学校が楽しい (因子II: 0.548)	1. 学校が楽しい (因子IV: 0.438)
25. 学校の行事は規則が厳しすぎる (-0.672)	6. よいクラブである (0.536)
9. 学校外に打ち込むことがある (0.565)	27. ギネスに挑戦する方法を知っている (0.471)
20. 生徒会が活発なら学校はよくなる (0.524)	7. 学校内に打ち込むことがある (0.454)
4. 先生とうまくいっている (0.513)	26. 学校の行事は皆が役割を持っている (0.452)
10. 仲間の行動を知っている (0.485)	15. 注意してくれる友人がいる (0.314)
16. 学級のために役立ちたい (0.483)	
34. 今後もギネスを大切にしたい (0.466)	
7. 学校内に打ち込むことがある (0.439)	
11. 仲間の考えを知りたい (0.431)	
2. 勉強がわかる (0.423)	
31. ギネスを通して仲間を再発見した (0.393)	
17. 学級の問題は話合いで解決したい (0.388)	
32. ギネスで学級の協力性が高まった (0.364)	
13. はみ出る仲間は学級全体の問題だ (0.361)	
29. ギネスは学校をよくするのに役立つ (0.321)	
28. ギネスの目的は理解している (0.315)	
6. よいクラブである (0.307)	
5. よい学級である (0.307)	

表7-2 「学校が楽しい」ことに寄与する因子 (2年生)

1. 学校が楽しい (因子II: 0.620)	1. 学校が楽しい (因子I: 0.222)
3. 友達とうまくいっている (0.646)	34. 今後もギネスを大切にしたい (0.752)
5. よい学級である (0.609)	30. ギネスによって生活にめあてができた (0.723)
12. 学校内に話せる友人がいる (0.521)	32. ギネスで学級の協力性が高まった (0.705)
24. 学校の行事の目的は理解している (0.505)	20. 生徒会が活発なら学校はよくなる (0.696)
27. ギネスに挑戦する方法を知っている (0.493)	33. ギネスに成功してうれしかった (0.665)
23. 生徒会の取り組みに協力している (0.478)	29. ギネスは学校をよくするのに役立つ (0.642)
17. 学級の問題は話合いで解決したい (0.424)	21. 生徒会は生徒の要求で活動している (0.603)
11. 仲間の考えを知りたい (0.399)	13. はみ出す仲間は学級全体の問題だ (0.552)
4. 先生とうまくいっている (0.397)	19. 生徒会役員は役割を果たしている (0.545)
6. よいクラブである (0.397)	31. ギネスを通して仲間を再発見した (0.500)
18. 生徒会役員をしっかりと選んだ (0.394)	16. 学級のために役立ちたい (0.483)
10. 仲間の行動を知っている (0.379)	23. 生徒会の取り組みに協力している (0.468)
33. ギネスに成功してうれしかった (0.351)	17. 学級の問題は話合いで解決したい (0.434)
15. 注意してくれる友人がいる (0.315)	14. 仲間のよくないことを注意したい (0.401)
	18. 生徒会役員をしっかりと選んだ (0.381)
	26. 学校の行事は皆が役割を持っている (0.373)
	25. 学校の行事は規則が厳しすぎる (-0.332)

表7-3 「学校が楽しい」ことに寄与する因子（3年生）

1. 学校が楽しい（因子Ⅰ：0.641）	1. 学校が楽しい（因子Ⅲ：0.268）
17. 学級の問題は話し合いで解決したい（0.540）	19. 生徒会役員は役割を果たしている（0.589）
13. はみ出す仲間は学級全体の問題だ（0.477）	21. 生徒会は生徒の要求で活動している（0.560）
34. 今後もギネスを大切にしたい（0.476）	18. 生徒会役員をしっかりと選んだ（0.460）
33. ギネスに成功してうれしかった（0.447）	2. 勉強がわかる（0.439）
25. 学校の行事は規則が厳しすぎる（-0.445）	24. 学校の行事の目的は理解している（0.368）
14. 仲間のよくないことを注意したい（0.443）	6. よいクラブである（0.357）
15. 注意してくれる友人がいる（0.439）	5. よい学級である（0.342）
3. 友達とうまくいっている（0.434）	20. 生徒会が活発なら学校はよくなる（0.331）
4. 先生とうまくいっている（0.417）	4. 先生とうまくいっている（0.321）
16. 学級のために役立ちたい（0.417）	15. 注意してくれる友人がいる（0.293）
12. 学校内に話せる友人がいる（0.380）	
5. よい学級である（0.376）	
31. ギネスを通して仲間を再発見した（0.360）	
23. 生徒会の取り組みに協力している（0.354）	
11. 仲間の考えを知りたい（0.348）	
18. 生徒会役員をしっかりと選んだ（0.305）	
24. 学校の行事の目的は理解している（0.305）	
7. 学校内に打ち込むことがある（0.301）	

の行事は規則が厳しすぎる」（設問25）で、-0.672の負荷を示している。「学校が楽しい」と感じとっている生徒は学校行事での規則は精神的負担にはなっていないということである。逆にいうと、行事での規則を厳しくしすぎることは学校を楽しいと感じさせないということにもなる。

学校のなかで、一般的にいつて指導者としての教師が気を配ることは、先生とうまくいっているかとか、友だちとうまくいっているかとか、勉強がわかっているだろうか（教科学習）とか、学級の雰囲気はどうだろうかとか、クラブ活動などでも充足感をもっているだろうかといったふうに種々の側面が考えられる。

こうした点を中心にみると、1年生の場合、因子Ⅱで、「先生とうまくいっている」（設問4）は、0.513の負荷を持っており、「勉強がわかる」（設問2）は0.423の負荷で「学校が楽しい」と共通次元にある。さらに、因子負荷はかなり低い「よいクラブである」（設問6）や「よい学級である」（設問5）がいずれも0.307の負荷をもってこの因子Ⅱに寄与していることがうかがえる。しかし、のちにみる2年生の場合のように「友だちとうまくいっている」（設問3）がこの因子Ⅱの軸（次元）には関与していないことがみられるのである。

教育的に多少因果関係をまじえて、解釈仮説的にみتينることにする。（もちろん、既述のように、因子分析は本来、相関から出発しており、従って関連性や関係性についてのみ言及するものであるから、因果関係を云々することは適当でないことはいうまでもないのだが……。）

1年生の因子Ⅱでは、「学校が楽しい」ということは、上に言及したように、「先生とうまくいっている」と重要な示唆的関連をもたらししている。児童期（学童期）を経て、中学校といういわば新しい学校環境に積極的に適応ないし順応して「学校が楽しい」と感じられるようになるのに、先生との関係（対教師関係）がかなり大きなウェイトを占めていることがうかがえるわけである。

それをキーとし、またはアンカーとして、この因子IIの次元に関与している設問の内容が抽出されてきていると考えられる。「勉強がわかる」（教科学習面）、「よい学級」、「よいクラブ」との認知も生じていると考えてよい。

小学校にあっては、一般的に、教師の指導的関与がかなりの比重を占めているのが、発達の段階の様相からみても通常の姿であろうし、中学校での新しい生活に入った1年生にとっては、未だ児童期的特徴をとどめている傾向が強いので、1年生の第1学期当初はとりわけ教師の指導的役割が、その後の学校生活に大きく関与する点を見逃してはならないように思われる。

「学校外に打ち込むことがある」（設問9：0.565）や、「生徒会が活発なら学校はよくなる」（設問20：0.524）、「仲間の行動を知っている」（設問10：0.485）、「学級のために役立ちたい」（設問16：0.483）、「今後もギネスを大切にしたい」（設問34：0.466）、「学校内に打ち込むことがある」（設問7：0.439）、「仲間の考えを知りたい」（設問11：0.431）なども、相当地に大きくこの因子IIの次元に負荷をもって関与していることがうかがえるが、依然として「友達とうまくいっている」（設問3）は関与していないことは上に述べたような解釈仮説的事情と関連して考えると、比較理解可能であると思われる。

要するに、1年生で、「学校が楽しい」ことに関して、因子IIで共通次元に因子負荷を比較的大きくもっている項目内容からみて、指導者としての教師の役割りやあり方がどのようなものであるかが大きく影響するものと解したい。

1年生で今ひとつ「学校が楽しい」（設問1）と関連する因子次元は、因子IVで、ここでは「学校が楽しい」ことは、0.438の因子負荷をもって、他のいくつかの設問と共通次元にある形となっている。

この因子IVに大きく寄与しているのは「よいクラブである」（設問：0.536）で、他は0.4台から0.3台の負荷量をもった4項目である。（表7－1参照）

ここでは「よいクラブである」（設問6）が、因子IIでは0.307の寄与に対して、この因子IVでは0.536の寄与となっており、比重がより因子IVの方にかかっていることがわかる。

また、「学校内に打ち込むことがある」（設問7）は、因子IIでは0.439の、因子IVでの0.454の寄与を示しており、あまり差がない。しかし、因子IIと因子IVとは相互に独立した因子であるから、同じ“楽しい”であっても、あるいは、“学校内に打ち込むことがある”という点で同じ行動水準に表出されているとしても、内的過程は全く異なるものであることを重視しなくてはならない。

総じていえば、“学校が楽しい”ということには、2つの全く独立した要因が関与しているということで、そのひとつは（因子IIでは）、教育仮説的に、強いて因果関係的に解釈すると、“先生とうまくいっていること”（設問4）が中核となっていると考えることができる。そのほかに、“学級の問題は話し合いで解決したい”（設問17），“はみ出す仲間は学級全体の問題だ”（設問13），“ギネスを通して仲間を再発見した”（設問31），“ギネスは学校をよくするのに役立つ”（設問29）などが関与している。これらは、“先生とうまくいっている”（設問4）との関連があり、先行変数的にはこのことに注目する必要がある。そうした内的過程のなかで、効果が波及し、“勉強がわかる”、“よい学級である”、“仲間の考えを知りたい”、“ギネスに関わった諸問題”、“よいクラブ”などの内容にも及んでいくものと考えられる。

いまひとつは、因子IVである。ここでは“学校が楽しい”との感じとり方は“よいクラブである”（設問6：0.536）が大きく関与していることは先にも言及した通りである。その他に、“ギネスに挑戦する方法を知っている”（設問27：0.471），“学校内に打ち込むことがある（設問7：0.454）”，

“学校の行事は皆が役割を持っている”（設問26：0.452），“注意してくれる友人がいる”（設問15：0.314）が、この因子IVに寄与していることがみられる。

クラブ活動などでの経験から学校が楽しく充実感がもてるようになり、学校内に打ち込むことを見出すことができる点は、特別活動の一環としてのクラブ活動の意識やあり方について示唆を与えるものである。協力校ではギネス（既述のとおり）に挑戦可能な方法として所属クラブからもエントリーできるようになっていることなども関連して、“ギネスに挑戦する方法を知っている”ことや、“学校の行事は皆が役割をもっている”こと、そして、そこにクラブ活動を通して“注意してくれる友人”を見出したりしている。必ずしも適切な表現でないかもしれないが、因子IIでの学校の楽しさは、カリキュラムのある教育での指導者の役割の大切さを、因子IVでの学校の楽しさは、カリキュラムのない教育に関連するものと考えてもよからう。もう少しちがった表現を教育実践的な見地からすると、因子IIは学級派、因子IVはクラブ派といえるかもしれない。

2. 中学2年生の場合：

表7－2は、表6－2に基づいて、2年生の場合の最終解から、「学校が楽しい」（設問1）に関与している因子を抽出してまとめたものである。

まず、因子IIでは、0.620の負荷をもって「学校が楽しい」（設問1）が関与しており、これと共通次元で因子IIに因子負荷量の大きい設問をみると、「友だちとうまくいっている」（設問3：0.646）、「よい学級である」（設問5：0.609）、「学校内に話せる友人がいる」（設問12：0.521）などとなっている。

先にも少し触れた（1年生の場合に）が、1年生では、「学校が楽しい」と共通次元の因子に負荷をもっているものは、因子IIでは「先生とうまくいっている」（設問4）という点であったが、「友だちとうまくいっている」（設問3）という点に関しては、この因子次元に負荷をもって関与していないことがみられた。ところが2年生では、「友だちとうまくいっている」ということが大きく関与し、「先生とうまくいっている」ことは1年生とは逆で、関与するにはするが、「友だちとうまくいっていること」ほどには負荷が大きくないことが示されている。

だから、2年生の場合では、教育的な解釈仮説的見地に立つと、友達関係が学校を楽しいと感じうるのに重要な要因となっていることがうかがえる。一般にいわれているように、中学1年生では未だ小学校期的な心理的特徴をとどめているのに対して、2年生ではそこから次第に脱脚して親や教師をも含めて周囲の大人たちに対して心理的に離反していく。青年前期的、思春期的特徴が顕著にあらわれ始め、身体的にも心理的にも自己を意識しはじめる。そのことは、自分を気にしつつも、不安や劣等感や孤独感や悩みにおそわれることになる。そこでは逆に反動形成的な反抗、理想主義的、優越感、批判的などとなって、行動化される。したがって、「自分を理解してくれるもの、自分を知ってくれるものは自分と同じレベルにある友人にしかない」といった心理過程が大きく内面を支配するのではないか。ある意味では自我の深化の始まりともいえる。

このようにして、友だちとうまくいっていることは学校を楽しいものにするし、逆に、友だち関係がうまくいかないことは学校を楽しくないものにするにつながると考えられる。そこから、「よい学級である」とも感じとるし、「よいクラブである」とも感じとる面が考えられる。1年生の場合の「学校が楽しい」が関与する因子IVでの「よいクラブである」というのは、2年生のような心理的過程には未だ達していないもので、次第に2年生の方向への心理的变化をしていく前段階的なものなのではないかと考えられる。

「学校内に話せる友人がいる」（設問12：0.521）は2年生の因子IIにはかなりの負荷をもつが、

1年生ではそれは負荷をもっていないことなどもすでに述べてきた諸点を考慮すると理解可能な面がある。

「仲間の考えを知りたい」（設問11）などをみてもこうした点は十分に理解できると思う。1年生では、先生との関係においてそのことが志向されているように思われるし、2年生では「自分と同じなのかどうか」といった、行動面とは別の次元のより深化された心理的過程の次元での願望ではなかろうか。ギネスに関する設問や、学校行事、生徒会等の設問についても、こうした観点で解釈仮説的にみた方が妥当のように思う。「仲間の行動を知っている」（設問10）に関しても同様の視点で考察すると、1年生では未だ2年生に比して深化しておらず、先生との関係において意識化されているが、2年生では上に述べた心理過程からみて、友人にしか理解されないような思春期的秘密のあることを示唆しているのではないか。

このようにしてみると、1年生では、（繰返して言及すれば）指導者としての教師が今後の学校生活への充実感に対して、かなり直接的、指示的な側面を持って生徒たちに接していくことも重要な意義を持つことになるが、2年生では友達関係を重視した間接的ないしは非直接的な形での指導・助言・援助のあり方を創出することが望まれることになる。

次に、もうひとつ別に「学校が楽しい」（設問1）に関与している因子Ⅰは、因子負荷量が0.222であって、極めて寄与量が低い。そして、そこに共通次元として負荷をもつ設問は主として、ギネス、生徒会、学校行事等、一般的には特別活動に関係したものが主体となっている。

これについて考えてみたい。今回の協力校での調査的研究資料を因子分析した結果からすると、設問（質問項目）数や内容などからみて、「ギネス」、生徒会、学校行事等に関してのものが比較的多く、その方向を重視した調査項目になったことが挙げられる。これは、協力校での実体からみて、こうした側面を重視すること、つまり、集団的な活動の活性化や高揚のなかから、生徒一人ひとりにも同時に充実感を持って物事に処して行ける方向へと導きたいとの目標と、それまでの生徒指導への経験的反省に立って上記の事柄に重点を置くことで、適応障害的、不適応的行動の改善や変容を目ざしていたこともあって、生徒たちが、そうした意図のもとに実施してきた事柄をどう受けとめているかを理解して、反省すべきは反省し、理解すべきは理解し、改善すべきは改善すべきだと考えていたためであった。従って、こうした点に関する調査項目が比較的多く、因子分析的には結果的にクラスターを形成して導出されたのではないと思われる。

しかし、今ひとつ考えておくべき重要な点がある。それをカウンセリングや治療に関連させて考えてみたい。たとえばカウンセリングにも指示的カウンセリング、非指示的カウンセリング、行動的カウンセリング等々がある。また、治療においても遊戯療法や行動療法等々がある。そしてそれらを平易に理解すると、一方には内面が変容することで外面（行動）が変容していくこともあるし、逆に他方には、外面（行動）を調整することで次第に内面的にも変容していくこともあろう。それと同じように、学校教育のなかでも、行動面を調整することで内的変化を企図することもあるし、内的変化を調整することで外的行動の変容を企図することもある。

この視点から2年生の因子Ⅰの場合をみるとどうであろうか。「ギネス」や生徒会や学校行事等の特別活動の側面から充実感もてるようにして、学習にも意欲を持ち、友だち関係や対教師関係にもより望ましい方向への改善を目ざしていることになろう。（もちろん、必ずしもそうした面だけでなく、もっともっと重要な教育的意図があることはいうまでもないが……。）

ところが2年生では必ずしもそれが「学校が楽しい」とことと直結せず、またこの因子Ⅰでは全くといってもよいほどに、「友だちとうまくいっている」とか「先生とうまくいっている」、「よい学

級である」とかの調査項目は関与せず（負荷をもたず）、共通の因子次元にないことがわかる。いうまでもなく、因子IIでは、「ギネス」や生徒会や学校行事のことは一部共通次元に負荷をもって出ていることは事実である。

だから、ここで強調しておきたいのは、「学校を楽しいものと感じ」、「充実感をもて」、「満足感・充足感をもたらず」のに、協力校でこれまで、生徒たちのより望ましい人格形成のために企図した種々の特別活動的取り組みが、「学校が楽しい」と感じることでできる側面と、それとは全く関係をもたない側面とが、生徒たちからみたときには存在していることを直視する必要があるということなのである。

このことは、特定の協力校での教育実践的な方策について批判したり、反省すべきだということを強調したいためではなく、広く一般に中学校での特別活動的取り組みについて、間断なく、生徒たちの側からの意識の様相、感じとり方、うけとめ方について、敏感であることが大切だし、とりわけ中学校教育の中で2年生あたりが一番指導困難な面のあることとも考えあわせて洞察していくことの必要性に言及したまでのことである。繰り返しにはなるが、中学校期・思春期と一括して考えがちだが、その中にあっても特に2年生のころは配慮すべきことがらが質的にも量的、内容的にも多岐にわたる心的側面があるということになろう。

3. 中学3年生の場合

表7-3は表6-3に示す3年生の最終解に基づいて、因子負荷が各因子に大きく寄与している設問（調査項目）をまとめて表示したものである。

「学校が楽しい」（設問1）が関与している因子は、因子Iと因子IIIとである。

因子Iでは「学校が楽しい」（設問1）が0.641の負荷をもっている。次いで、「学級の問題は話し合いで解決したい」（設問17：0.540）、「はみ出す仲間は学級全体の問題だ」（設問13：0.477）、「ギネス」関係についての設問（34、33でそれぞれ0.476、0.447）、「学校の行事は規則がきびしすぎる」（設問25：-0.445）、仲間・友人に関する設問（14、15でそれぞれ0.443、0.439）などとなっており、引き続いて「友だちとうまくいっている」（設問3：0.434）、「先生とうまくいっている」（設問4：0.417）といった具合になっている。もう少し因子負荷は小さいが、この因子Iの次元に「よい学級である」（設問5：0.376）、「学校内に打ち込むものがある」（設問7：0.301）が関与している。

教育的指導の面から解釈仮説的、因果関係的にみると、「先生とうまくいっている」こと、また、「友だちとうまくいっている」ことがかなりウエイトを占めて、同一次元にあることは注目をひく。1年生では「先生とうまくいく」ことに充実感への誘因が考えられ、2年生では「友だちとうまくいく」ことに充実感への誘因が考えられて「先生」の存在はある意味では希薄化されていたのに対し、3年生では、「先生」も「友だち」も同一次元に関与してくるといった様相を呈している。そこに「よい学級」であり、「ギネス」や学校行事等の特別活動的側面も大きく関与してくる。もちろん、協力校での種々の特別活動への創意・工夫が、先生とうまくいき、友人ともうまくいって、よい学級と感じさせている面もないとはいえないだろう。

大切なのは、「先生」関係と「友だち」関係とがうまくいくこととが同一次元で関与していることで、「学校が楽しく」なっている点を見逃してはならない。通常考えられているように、3年生は最終学年であり、種々の心理的、内面的過程の作用を考えると、青年前期的・思春期的特徴をとどめつつも、次第に自我の拡大とともに深化が、最高学年としての心理環境的事情も関与して、2年生よりもより大きく働き、同時に統合され、体制化されていくのではないだろうか。いわ

ば内的自覚とともに、将来への方向性を環境的にも模索しつづける段階へと入っていくことも関係しているだろう。そうした点で、「仲間のよくないことを注意したい」（設問14：0.443）、「注意してくれる友人がいる」（設問15：0.439）、「学校内に話せる友人がいる」（設問12：0.380）、「ギネスを通しての仲間の再発見」（設問31：0.360）、「仲間の考えを知りたい」（設問11：0.348）といった内容もこの因子次元に共通に負荷をもっていると考えられる。そして、「学校内に打ち込むことがある」（設問7：0.301）といった心理的状态になっていることもうかがえるのである。

一方、注目を引くのは、「勉強がわかる」（設問2）である。1年生では「学校が楽しい」ととの関連でみると、因子Ⅱで「先生とうまくいっている」（設問4）と同一因子軸に負荷をもっているが、2年生では「学校が楽しい」ことが関与する2つの因子のうちのいずれにも負荷をもたないという事実がみられる。そして、3年生では因子Ⅲで関与しているという形になっている。因子Ⅲでは「学校が楽しい」（設問1）の負荷量そのものは0.268と低いが、これと同一因子軸に「勉強がわかる」（設問2）が0.439、「先生とうまくいっている」（設問4）が0.321の負荷量をもって寄与しているのである。そのほか、生徒会への意識に関する項目が4項目、それに「よいクラブである」（設問6：0.357）、「よい学級だ」（設問5：0.342）などといった形で、この因子Ⅲ軸はパターン化されている。

寄与の仕方は相対的に低いとはいえ、「勉強がわかる」と、「先生とうまくいっている」とことが同一の因子軸（因子Ⅲ）に負荷量をもっていることは、「勉強がわかる」ので「学校が楽しい」とする意識は、「先生とうまくいっている」となどと関連し、かつ、因子Ⅰの場合に仮説的に考察したとと相まって、1年生の場合とは異なった形で分化的に「学校が楽しい」ことへ寄与しているのである。

4. 全体的考察：

以上のように1年生から3年生までの学校生活に対する充実感を質問紙調査で行ってみると概要として次のように考えることができる。すなわち、

①1年生では、「学校が楽しい」ことには、「先生とうまくいっている」ことが中心的な意識となっており、それによって「勉強がわかる」、「よい学級だ」、との意識とともに、協力校で企図している「ギネス」、生徒会、学級の諸問題等への意欲も高まり、充実感がもてることにつながっている。いまひとつは、「よいクラブだ」との関係で学校が楽しくなっている。また学童期的特徴をとどめているので教師の役割が重要であることを示唆するとともに、クラブ活動などを通しての人間関係（友達関係）のひろがりの中で充実感がもてるきざしがみえてきている。

同時に、特別活動的取り組みも学校が楽しくなることに教育的意義をもっていることも示唆されている。

②2年生では、「友だちとうまくいっている」ことが、学校を楽しむのに大きな比重を占めている。中学校期のなかで、思春期的な特徴が最も顕著にあらわれ、心理的に自分たちの気もちは同じレベルにある友だちにしかわからないといった雰囲気典型的に示されているように思われる。その意味で逆にいえば特別活動の存在意義が大きいようである。この時期には「勉強がわかる」ことは充実感に関係なく、指導上考えねばならない。学習意欲を高める指導者の力量も別の側面（つまり教科指導や学習指導面で）で重要なことを示唆していることを、無視してはならない。

③3年生では、友だちとうまくいき、先生ともうまくいくことで充実感がもて、同時に特別活動も大きく関与する。勉強がわかることも充実感に対して別の形で関与することがわかった。最

終学年としての外的環境と内的環境が相まって、充実感についても統合と分化がみられるように思う。

参考文献

- 浅野長一郎（1971）因子分析法通論 東京：共立出版
- Burt, C. (1941) The Factors of the Mind. New York: MacMillan.
- Cattell, R.B. (1952) Factor Analysis: An Introduction and Manual for the Psychologist and Social Scientist. New York: Harper & Brothers.
- Fruchter, B. (1954) Introduction to Factor Analysis. Princeton, Newjersey: D.Van Nostrand.
- Holzinger, K.J., and Harman, H.H. (1941) Factor Analysis. Chicago: University of Chicago Press.
- 一谷 彊（1963）因子分析法 四方実一・一谷 彊（共著）（1963）教育統計法入門 第18章 pp. 227-302. 東京：日本文化科学社.
- 一谷 彊・相田貞夫・水谷 昭（1989）長期欠席生徒の問題理解と援助・指導。京都教育大学教育実践研究年報，第5号，pp. 323-345.
- 一谷 彊・相田貞夫・水谷 昭（1990）中学生の学校生活への充実感に関する教育心理学的研究（1）——学校生活への意識・行動と満足度——。京都教育大学教育実践研究年報，第6号，pp. 137-161.
- 一谷 彊・相田貞夫・水谷 昭（1990）中学生の学校生活への充実感に関する教育心理学的研究（2）——学校生活への意識と満足度の再調査による変化を中心に——。京都教育大学紀要，Ser. A, No. 76, pp. 15-41.
- 磯貝芳郎（編著）（1981）教育心理学の世界。東京：福村出版。
- 河合隼雄（編著）（1985）生徒指導とカウンセリング。京都：ミネルヴァ書房。
- 倉智佐一（編著）（1978）児童理解の方法。京都：ミネルヴァ書房。
- 京都府総合教育センター（1982）教育資料・昭和56年度第4号「学校教育相談Ⅰ」
- 京都府総合教育センター（1984）教育資料・昭和59年度第1号「子どもの生活意識と行動に関する研究調査」
- 舞鶴市立和田中学校（1980）中学校における同和教育。京都：部落問題研究所。
- 舞鶴市立和田中学校（1985）「集団意識をそだてる」～和田中ギネスのとりくみ～。「くらしと結ぶ同和教育」，13集，同和教育研究会京都府連合会。
- 三好 稔（編）（1962）心理学と因子分析。東京：誠信書房。
- 文部省（1983）「生徒の健全育成をめぐる諸問題」——登校拒否問題を中心に——。生徒指導資料・第18集，生徒指導研究資料・第12集。
- 文部省（1986）生徒指導の手引（改定版）。
- Mulaik, S.A. (1972) The Foundations of Factor Analysis. New York: McGraw-Hill.
- ピアソン・カール（Pearson, K.）著，平林初之輔訳（1930）科学概論。世界大思想全集，第41巻，東京：春秋社。
- 坂本昇一（編著）（1981）生徒指導，「現代のエスプリ」No.172，東京：至文堂。
- 坂田 一・林 保・岡本夏木・神戸忠雄（1967）青年期の理解。東京：福村出版。
- Thomson, G.H. (1951) The Factorial Analysis of Human Ability. 5th Edition, London: University of London Press. (1st Edition, 1939)
- Thurstone, L.L. (1947) Multiple-Factor Analysis: A Development and Expansion of the Vectors of Mind. Chicago, Illinois: The University of Chicago Press.